

第2期 堺市北区政策会議 第4回 会議録

日 時：令和7年3月21日（金）15時から16時30分まで

場 所：堺市北区役所3階302会議室

出席者：

【構成員】（敬称略）魚谷守信、加我宏之、坂江祥衣、清水苗穂子、中田萌々果、長尾永子、
野田誠子、羽根恵子、坊農豊彦、吉村登志子（以上10名出席）

【事務局】鈴木敏文（区長）、原田明美（副区長）、市川行則（区域活性化調整担当部理事）、
辻本多美子（北保健福祉総合センター所長）、花田智夫（新金岡地区活性化推進室
長）、出野俊之（自治推進課長）、羽野敏博（地域福祉課長）、宮田大志（子育て
支援課長）、山本美佐子（北保健センター所長）、藤井裕子（北保健センター所次
長）、樋口年秋（堺市社会福祉協議会北区事務所長）、藤本浩一（堺市社会福祉
協議会北区事務所地域活動推進係長）、本池茂（企画総務課長）、至田義朋（企
画総務課課長補佐）、増川哲（企画総務課企画係長）、佐藤裕子（企画総務課）

会 議：公開会議

傍 聴：傍聴者数1人

1 開会

2 会議報告

「事務局から配布資料の確認、会議の公開についての説明、傍聴人数の報告」

3 議事

○加我座長 皆さん、こんにちは。大阪公立大学の加我でございます。

早速でございますけども、本日の議題に移りたいと思います。

第2期での意見交換については本日が最後と聞いてございます。

事務局から、思い残すところがありませんということでございますので、思い切りご意見をいただいて、北
区のこれからについて議論をしたいと思いますので、ご意見の方どうぞ宜しくお願いいたします。

それでは、事前に見ていただいているかと思いますが、アンケート調査結果が揃ったということで、それに基づ
いてビジョン改定の大枠の方向性について説明をいただいて、意見交換をしたいと思います。事務局の方か
ら資料の説明をよろしくお願いいたします。

○事務局（増川企画総務課） それでは、赤のインデックスがついた資料2の2ページからご覧ください。

まず、会議の目的と意見聴取のポイントについてご説明いたします。

昨年12月に区民を対象に実施しましたアンケート調査結果、また、「北区みんなのまちビジョン」の上位計
画であります、堺市基本計画についての懇話会資料を事前に送付させていただいております。これらを踏ま
えまして、事務局で考えています次期「北区みんなのまちビジョン」策定に係る基本的な方向性についてご

提案させていただきます。

皆様からご意見をいただきたいポイントとしまして、事務局提案の基本的な方向性が適切であるか。また、アンケート調査結果など現状を踏まえまして、次期ビジョンに盛り込むべき今後重要となる視点などについてご議論をお願いしたいと思います。

これらについて本日いただいたご意見を踏まえまして、次期ビジョン骨子案を作成してまいります。

3ページにお進みください。

昨年12月に実施しました北区民意識調査の結果概要です。

16歳以上の北区民3,000人を対象に郵送とWebモニターの2つの調査手法で実施しまして、合計で1,532件の回答が集まりました。北区の居住満足度などを調査しまして、次期ビジョン策定の方針を考える上でお伝えしたい内容については、ピックアップして後ほど資料の中で随時紹介してまいります。

4ページにお進みください。

次期ビジョン策定のスケジュールです。今回のこの会議で第2期の北区政策会議は最終回となります。今回、次期ビジョンに関してご意見いただいた内容を骨子案に反映する形で、来年度からの新たな第3期北区政策会議に次期ビジョンの検討を引き継いでまいります。

5ページにお進みください。

次期ビジョン策定の方針を検討する上で考慮すべき3点のご説明です。

1つ目として、ビジョンがめざす将来像の認知率と目標の達成状況です。アンケート調査結果から、将来像の認知は浸透し切っておらず、3つの基本方針における目標は未達成の項目が半分ある状況となっています。現時点では、将来像の実現はまだまだ道半ばの状況でございます。

2つ目として、北区ビジョンの上位計画であります堺市基本計画の改定の方針です。市の計画も北区と同時期に改定を控えており、先般1月に開催されました堺市基本計画の次期策定に向けた懇話会では、現行計画の基本事項など基礎となる部分の考え方は引き継がれる方針が示されています。

3つ目として、北区を取り巻く環境の変化です。今年1月、政府の発表で南海トラフ地震の発生確率が30年以内に80%程度に引き上げられました。また、能登半島地震や異常気象による災害が相次いでおり、防災・減災へのより一層の対策が求められています。また、特殊詐欺被害をはじめとした防犯に関する取組強化や一人暮らし高齢者の増加への対応の必要性が高まっているような状況です。

これらを考慮しまして、市の基本計画同様、現ビジョンの主な構成の枠組みをベースにしまして、区民アンケートの調査結果や社会情勢の変化などを踏まえながら見直すべき項目を整理し、より実効性のある内容へと精査する形で次期ビジョンの策定を進めてまいります。なお、次期ビジョンの計画期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間といたします。

続きまして、6ページにお進みください。

ビジョンの主な構成の枠組みのご確認をお願いします。

区民協働による地域共創の方向性を示すこのビジョンの枠組みは、基本的な考え方、将来像、将来像の道筋を考える戦略、基本方針の順で構成しております。資料に記載の各項目は現ビジョンの内容のもの

ですが、これに区民アンケート調査結果、社会情勢の変化などを反映させて、次期ビジョン策定を進めてまいります。

それでは、7ページにお進みください。

まずビジョンの枠組みの最初となります基本的な考え方について、事務局で考えています方向性です。

現ビジョンでは、「すべての人が住みたくなる街、ずっと永く住み続けたい街」としてありますが、一部文言を変更いたしまして、「みんなが住みたい・住み続けたい北区」と簡潔化し、引き継ぎたいと思います。

こちらの根拠としまして、アンケート調査結果や人口推移などのデータから、まず人口動態を見ますと、人口や出生数が堺市内の区で最も多い状況に5年前と変わりはありませんが、転入・転出者の合計であります社会動態では、直近10年の総計でマイナス1,656人と、転出者数が転入者数を上回っている状況です。

また、アンケート調査結果を見ますと、参考資料2の15ページに記載しています（問3）の「これからも北区内に住み続けたいと思いますか」で、「どちらかというと思わない」「思わない」と答えた方に聞いたその理由では、「新しいところに住みたいから」が最も選ばれており3分の1以上を占めまして、転出者数の増加を抑えるために、北区に住み続けたいと思う方を増やすことが求められる状況となっております。

8ページにお進みください。

次にビジョンに掲げていますが、めざすべきまちの将来像です。

こちらも基本的な考え方と同様に、一部文言を変更しまして、『『たのしい』でつながる北区』と親しみやすく覚えていただきやすいよう簡潔化いたしまして、引き継ぎたいと考えております。

7区で最多となっています、人口・現役世代人口・出生数、また転入者数が多いこと、豊かな歴史文化資源、居住満足度が高い、といった北区の特性は現在でも変わりありません。引き続き、これらマンパワーが豊富であることや住んでいる地域への愛着の高さなど、北区の強みを生かしながら、皆さんの共感を得やすく行動につながりやすい、前向きで明るい将来像をより浸透させることで、区民協働の輪を広げていきたいと考えています。

次にアンケート調査結果資料7ページに掲載しています、（問1）では、北区がめざす将来像認知率は約22%にとどまっており、区民協働の輪を広げられるよう、引き続き浸透を図ってまいりたいと考えています。

またアンケート調査結果、48ページに掲載しています、住民同士のかかわり合いを聞く（問22）では、「立ち話をする」や「おせっかいをやく」などの関わり合い8項目全てにおいて、5年前調査時と比べてかかわり合いがある割合が減少している状況であり、『『たのしい』でつながる北区』に向けて、無理のない「ゆるやかなつながり」がより重要になると考えています。

それでは、9ページにお進みください。次は戦略です。

将来像への道筋として入り口となる戦略Aで『『たのしい』行動のきっかけをつくる』としているのですが、アンケート調査結果資料30ページに掲載しています（問12）の「地域活動に参加したくなる条件」で「忙しくなく時間があれば」が1位となっていることから分かるように、多くの方にとって地域活動に参加するなど、新たな行動を起こすことはハードルが高いものです。そこで、行動に至るまでの前段を入れることで、より実効性の

高いものにしたいと考えています。

具体的には、アンケート調査結果から読み取れます、区民が取り組みやすく、区役所に求められている情報発信・収集の要素を含めたいと考えています。区民アンケート調査結果資料25ページに掲載しています「北区の魅力向上、課題解決に対して区役所がすべきこと」（問10）では、情報の発信が1位。また27ページに掲載する「北区の魅力向上、課題解決に対して区民ができること」（問11）では、「区役所などからの情報に関心を持つ」が1位で56.3%と突出して選ばれています。

また30ページに掲載の「地域活動に参加したくなる条件」（問13）では、「興味関心のある活動があれば」や「雰囲気、居心地がよければ」、「地域活動の曜日や時間が参加しやすければ」が上位となっており、様々な活動を効果的に周知し、よく知ってもらうことで参加者の増加が図られる戦略を検討したいと思います。

また、アンケート調査結果資料36ページに掲載の「北区の情報を伝達・発信したくなる条件」（問16）では、上位が「魅力を感じるスポットを知ったら」で4割弱、「魅力を感じる地域活動を知ったら」で3割弱と選ばれておりまして、情報を知ったら伝達したいと思っている割合が合計で7割近くあることが分かります。

以上のことから、情報収集・発信の重要性を踏まえまして、区民の共感を得ながら進められる実現可能性の高い道筋へとバージョンアップを図りたいと考えております。

10ページにお進みください。

次に基本方針です。北区の特性を踏まえ、取り組むべき基本方針については、現行の内容を引き継ぎたいと考えています。理由となるデータとしまして、アンケート調査結果から優先改善課題を簡単に分析しました。

アンケート調査結果資料の24ページをご覧ください。

（問6）の居住満足度を縦軸にし、平均より低い満足度のもの、（問8）の居住課題を横軸にし、平均より高く課題に感じているものを右下の囲みに抽出いたしました。結果は、防犯に関する取組の充実、防災に関する取組の充実が優先して改善すべき課題の上位となっています。

資料にお戻りください。

現ビジョンの成果指標として設定する目標の達成状況をご確認ください。

各基本方針で未達成のものがあり、全体達成率は50%となっております。引き続き、北区の特性に応じた取り組むべき現行の基本方針に取り組むたいと考えております。

11ページにお進みください。

次期ビジョンに加味したいと考えています視点になります。これまでの北区政策会議を振り返りまして、今後重要となる視点をピックアップいたしました。

1つ目は、「関心を持ってもらう機会をつくるため、興味の高いイベント・事業への関連付け」です。

これまでの会議での「各事業を単発とせず、関連付けることで相乗効果がある」といったご意見や、「魅力発信や子どもに人気のはみがきうさぎ、イベントなどと絡めて防災に意識を向けてもらえる」といったご意見、「発信だけでなく、体験できる機会があればよい」などのご意見から重要な視点と考えております。

次に2つ目は、「多様な主体の連携」です。

「自治連合協議会、NPO法人、ボランティア団体、学生、子ども食堂、企業、店舗など様々な団体や組織と連携し、それぞれの得意分野をふんだんに活用していくとよい」また、「区政策会議の構成員の力も借りるべき」とのありがたいご意見をいただいております。

そして3つ目は、「Web上だけでない多様な媒体での情報発信」です。

「インターネットが利用できない方にも届くようWeb上だけでない発信、またターゲット層に届くよう区役所の媒体だけでない多様な媒体での情報発信が必要」とのご意見をいただいております。

4つ目、5つ目として、高齢化への対応、高齢の方の社会参加の促進。フレイル、介護予防、認知症への対策です。

「高齢者に向けた支援にも力を入れてもらいたい」といったご意見、「高齢の方が気軽に参加できる活動を分かりやすい形で情報に触れやすくできるとよい」といったご意見、「祖父母に向けた育児講習会があるとよい」などのご意見をいただいております。

そのほかにアンケート調査結果を見ますと、「参加したい地域活動」（問14）では、「健康づくりに関する活動」、「スポーツ・レクリエーションに関する活動」が上位となっており、「地域活動に参加したくなる条件」（問13）では、「興味関心のある活動があれば」を約4割の方が選んでおり、興味関心の高い健康づくりやスポーツ・レクリエーション活動を推進することで、地域活動の輪が広がる可能性がうかがえます。

また、興味がある区役所からの発信情報（問17）では、「魅力スポット」「防災」「イベント・講習」「防犯」が上位となっており、これらの興味の高い情報に関連付けることで、その他に伝えるべき情報に興味を持つ機会をつくることのできる可能性がうかがえます。

更に、市の将来人口推計を見ますと、高齢化率が再来年の2027年頃から徐々に上昇、5年後の2030年頃に要支援・要介護認定者数がピークに達すると見込まれています。高齢化やフレイルへの対応がより重要となっている状況です。

以上、これまでの区政策会議でのご意見及びアンケート調査結果などから読み取れることを加味しまして、次期ビジョン策定を進めてまいりたいと思います。

以上が、次期ビジョン策定の大枠の方向性についてのご提案となります。構成員の皆様には、事務局が提案する大枠の方向性について適当であるか、また、これまでの北区政策会議や今回のアンケート調査結果などから、今後重要となる視点、次期ビジョンに加味すべき視点についてご意見を頂戴したく存じます。次期ビジョンがより区域の実情に合った実効性の高いものとなるよう、忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いいたします。

○加我座長 どうもありがとうございました。

それでは、アンケート結果、それから人口動態等、それから社会情勢を踏まえての今後の北区ということで、現行の「北区みんなのまちビジョン」を部分改正し、より実効性を高めるために今考えているところをご紹介します。

お集まりの構成員の皆さんにおかれましては、各専門の立場であつたり、生活実感を踏まえてということでご

意見をいただければと思います。

それでは、どこからでも構いませんので順番を前後しながらでも進めてまいりたいと思います。お気づきの点等、細かな点からでも構いませんので、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○吉村構成員 今後のことについて、いろいろと改善されるとのご説明ありがとうございました。

この会議の構成員を引き受けさせていただいた時に、参考資料の「北区みんなのまちビジョン」の53ページのところが現行ビジョン策定時の総まとめだろうなというふうに感じていました。

やはり先ほどご説明あったように、南海トラフや様々な災害など予測不可能なことが起こり得る現代ですので、確かに防災に関することなどは希望が非常に高いというのも分かりますし、防犯もやはり同じようなことが言えるのかなと思います。

ただ4年たってみて、現行ビジョン策定時と今回のアンケート集計結果の24ページと比べたところ、防災と防犯が依然として優先課題に挙がっていますが、取り組んできてまだまだ周知されていないところもあると思うのですが、4年前と今の違いについて行政の実感として感じられるところがあれば教えてほしいです。完全に周知するって難しい部分ではあるんですけども、実際にいろんな取組を進めてみて、何か少しでも違いがあればいいなと思っています。

何でこんなことをお聞きするかというと、「できない、できない」というよりは、できたことに目を向けてどんどん前を向けたらいいと思うんです。何でも「課題、課題」としてしまうと、マイナスから始まるようなイメージがあるので、評価が低くて充実希望が高いものであっても、やってみてよかったということは何だったんだろうとお聞きして思いましたので、もし分かれば教えてください。

○加我座長 はい、ありがとうございます。私もいろんな行政計画とお付き合いしてますけれど、行政側の視点では、ついついネガティブな方向から行く、当然課題に向き合っていくことになるのかなと思いますけども、少しポジティブに捉えてもいいんじゃないかということと、今までの取組を振り返ってということで、事務局もしくは北区役所から思いの丈を語っていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（増川企画総務課企画係長） 事務局から、ご説明させていただきます。

防災の取組につきましては、この政策会議でもご議論いただきまして、昨年の3月から北区みんなで防災ホームページを開設しております。今まで足りていなかったホームページでの発信をまずは強化しまして、それぞれの自助を、皆さん同士で呼びかけるような発信に取り組んでいます。このことも手伝ってか、会議資料の10ページに記載しています目標達成状況では、防災に関する取組の充実に不満を感じている区民の割合が少し改善されたのかなと感じているところです。

このホームページは会議でもご指摘いただいたんですけども、検索して見に来てもらわないことには意味がありませんので、今後は、いろんな手法でそこに有益な情報があるということを知ってもらって、ホームページの来訪を促進したいと思っています。また、このホームページでは自助を呼びかけることは充実しているんですが共助について情報が十分でないというご指摘をいただいていますので、共助についてももっと発信を強化しまして区内の広がりを図っていかねばならないと考えています。

そして、防犯に関する取組については、これまで政策会議でテーマにして実際に取組に反映してということが

できていませんでしたので、今後そういったものも提案してご議論いただけたらと考えているところです。

○加我座長 はい、ありがとうございます。いかがですか。はい、どうぞ。よろしくお願いします。

○吉村構成員 アンケート結果を見せてもらっても、やはり北区は公園をはじめとして自然が多いと皆さん思っておられますので、すぐにはできないことだと思うんですけど、公園を美しくするとか、その安全性にはぜひ力をかけていただきたいと思います。トイレがあつたらいいとかも書かれているんですけど、折角たくさんの緑があるので、やはりそこで過ごす居場所だったり、安全性、防犯も含めて、行政だけということではなく共助が必要になってくると思うので、みんなで協同して美しくしていければいいなと感じています。

○加我座長 はい、どうぞ。魚谷さん。

○魚谷構成員 魚谷です。

「今後重要となる視点を加味」という項目で、これまでの会議の意見を踏まえてという形で表示していることが、1つの前を向いた進歩だと思っております。今まで複数回にわたり政策会議が開かれまして、防災から子育て、いろんな項目に関して様々な意見を皆さん出されましたけれども、今までを振り返りますと、反映されて、実際に実行していただいているものも随分出てきたと思います。

今後の重要なこととして「関心を持たせる機会をつくるため、興味の高いイベント・事業への関連付け」も大事ですが、アンケート調査結果にもあるように、やはり現役世代の方の参加率があまりよくないので、参加してもらえるように、開催曜日を工夫するなどいろんなことを前向きに検討していただきたいと思います。

多様な主体の連携に関しては、事業の内容によって、ある程度連携できる相手先をネットワーク化していただいて、事業ごとにそのネットワークを使ってあまりお金をかけずにやれるいろんなイベント事業もたくさんあると思いますので、その辺もご検討いただければと思います。

資料を見ますと、一歩前進した内容で考えていただいているんじゃないかなと期待はしているんですが、もう一つ、役所の中での水平の連携。それから先ほどおっしゃった企業、NPO法人、いろんな地域団体、ボランティア団体との連携を密にいただければ、予算がなくても少なくとも、いろんな事業の幅が広がると思いますので、そのあたりを考えていただきたいと思います。先ほど吉村構成員がおっしゃったようにネガティブに捉えずに、とにかくやってみよう。やってみて、結果よければまた継続して、悪ければ、また何で悪かったかと反省して改善策が出てくるんじゃないかと思います。またアンケートの結果も加味していただければ、今後に十分期待が持てるんじゃないかなと思います。

○加我座長 ありがとうございます。

今までとにかくやってみようということではいろんなことを取り組まれてきて、これからは点検しながら継続的にやっていくことが大切だと思います。

あと一点注目してほしいのですが、現行ビジョンの53ページの、縦軸に評価の満足・やや満足、横軸に、充実希望度を置いて、平均を真ん中にして4つに区分して示されています。それで、充実希望度のほうのメモリがゼロから40%になっていて、今回のアンケート結果の24ページでは、ゼロから10%になっていて、充実希望についてはかなり低くなったと読み取れますので、同じ課題が挙がっていたとしても、よくよく見てみると、全般的な充実希望は非常に少なくなっているという状況の中で、更にこうしたことを高めていきたいと思います。

ていますので、今まで北区が、それから皆さん区民の方々が取り組んでいただいていることの効果が現れているのかなと思います。

確かに4つに区切りますと、防犯・防災ということで、この防災については、もう地道に続けていかないと、いつ何とき起こるか分からない、忘れずにということで取組が必要な箇所だと思いますが、充実希望の割合としては低くなっているということです。

自然災害に対しての安心感ということですが、これはもう社会状況だと思います。北区にかかわらず、南海トラフ地震の対応ということと、能登もそうですし、ここ数日、東日本大震災から20年を迎え、阪神淡路大震災で30年ということで、皆がもう一度気を引き締めないといけない、常日頃からの備えが重要だということを改めて認識されるようになってきたということだと思います。

そんな中でも、「まちなみの美しさ」の充実希望度が低くなって左側に行ったということは良い傾向です。

○吉村構成員 充実希望度は低くなったんですけど評価はまだ低い。けれども同じように前を向けたらと思います。

○加我座長 着実に前に進めつつ、忘れてはいけないことを改めて確認することが大切だと思います。

ほかにご意見はございませんでしょうか。

○羽根構成員 すみません、ちょっと耳の痛い話になるかもしれないんですけども。

北区がめざす将来像の認知で、公務員が知らない割合がすごく多いんですね。アンケートは北区役所の人だけが答えているわけじゃなくて、いろんな分野や地域の公務員さんがいらっしやるのでやむを得ないかなと思うんですけども、ちょっとそれが目を引いたのと、あと地域活動に参加したくなる条件を聞いて、興味のあることをしたいとかいろいろ考えているのはいいんですけども、自治会の加入や地域活動の参加を聞く質問の結果を見るとほとんど高齢者の参加が多いですね。今、世の中自治会離れていうのがすごく問題になってきて、自治会加入率もどんどん減っていく中で、こういう地域活動を進めていく担い手っていうのが高齢化してどんどん活動内容が縮小して、自治会に入っているメリットが感じられないことと、相乗効果でどんどん参加が減っているような感じなんですよ。その辺が何か一応楽しいことをしようとしても、それを地域で誰が運営して誰が進めていくのかっていうのが、非常に課題になってきて、自治会の役員になったらいろんなことをしないとけないので大変だから自治会をやめようとかいう人も増えているような現状で、果たして自分自身も地域活動にどうやって参加したらいいのかなっていうクエスチョンの部分があるんです。それでも、できることを地道にしていけるように、これだけ課題でいろいろビジョンをあげていただいて、それをもっと展開して今も徐々に進めていってよくはなっているんですけども、これ以上どうやって発展させていくかっていうのは、やっぱりマンパワーが必要になってくるので、その辺をどうしたらいいのかというのが一番課題かなと思っています。

そして、長いこと、この政策会議に携わらせてもらって全然専門知識もなく、まちづくりということで勉強させていただいて、私自身にとってはすごくメリットだったと思います。

まちづくりをすることによって防災力も高まるし、防災力を向上しようと思ったら、またまちづくりにも発展するって、やっぱりすごいつながりがあるので、私は地域でも防災でまちづくりを引き続き考えていこうかなと思っています。

○加我座長 はい、ありがとうございます。

北区がめざす将来像の認知率、全体で22%でしたかね。すみませんけど私は行政計画をそう見る人はいないだろうと思って、私はそれぐらいかなと思ったんですが、この職業別で、公務員の認知率が低いことについては気づきませんでしたね。北区ですので多分大阪市の方も南の方もいらっしゃるかと思いますので、必ずしも堺市の職員ではないかと思いますが。公務員はいろいろ行政計画にも関心があるかと思いますので、こういう方々に知ってもらう、そこから1歩始まっていくことも重要だと思います。ありがとうございます。

自治会の加入率みたいなことについてはどのようにお考えでしょうか。少し状況等を教えていただければと思いますが、いかがですか、事務局のほうで。

例えば、他区と比べて北区はどういう状況かみたいな情報があれば、教えていただければ。いかがですか。

○事務局（出野自治推進課長） 自治推進課長の出野と申します。お世話になります。

ちょっと手元に細かい数字はないんですけども、加入率は堺市全体を通じて低い状況でして、50%を切っているところもあります。北区の中でも校区によりましてかなり差があります。平均では50%くらいで、それを上回るところもございます。他区と比べても同様の状況にあると思っております。

○加我座長 ありがとうございます。元々の農村集落からの地域では自治会加入率は高いですが、清潔で便利になればなるほど自治会加入率は下がる、地域での暮らしに少し不安があれば自治会加入率が高まるといったことがあると思います。

北区でいきますと、今回のアンケートでいけば714対713で地域活動の参加率は5割ということですが、地域を支えていくのは地域活動、自治会活動がその1つであり、いろんな活動が増えてきているかと思いますが、地域活動が支える防災のまちづくりが、今後も重要になってくるのかなと思います。

ほか、続いていかがでしょうか。

○坂江構成員 ありがとうございます。感想なんですけれども、3点ぐらいありまして。

まず、防災に関する取組について、私の実感の話なんですけれども、私が関わっている子育ての分野では、子育て世帯向けの防災のパンフレットであったり、あと防災士の資格を持ったお母さん方の活動であったり、そういうのがすごく何度も目に入ってくるので、すごく取り組んでいるんだという実感を持っています。

それから、様々な校区で防災フェア・防災フェスタという取組が行われていて、それに関するポスターを掲示板で見ることがあって、地域としてその防災に取り組んでいるんだと感じているところです。

それとは別に2点目として、今後重要となる視点のところで、Web上だけでなく多様な媒体での情報発信というところで、情報発信は、もちろん新しく始めることや直近のイベントを広報することが本当に大事なんですけれども、既にいろんな素敵なもの、情報がまとまったものを作ってらっしゃるので、それを本当に繰り返し繰り返し出していただきたいなという思いがあります。情報ってなかなか自分がいざ関係ある立場にならないとすっと見逃してしまうものですので、既にあるものをいろんな媒体で繰り返し発信するということに力を入れていただけたらと思います。

3点目として基本方針の安全・安心の街という観点なんですけれども、防犯・防災についてこれからも力を入れて取り組んでいくべきで、これは本当に重要なことだと思います。そう言えば、交通の安全みたいなことに

関してはあまり述べられていないですかね。

もちろん交通安全、堺市でたくさんいろんな取組をなさってると思うんですけど、例えば北区、子育て世帯が多いまちということはこどもを乗せた100キロぐらいある電動アシスト自転車がたくさん走っているまちであるということも言えると思うんです。時々、抱っこ紐で赤ちゃんを前に抱っこして走ってらっしゃる親御さんを見かけるんですけど、あれ違反なんですね。抱っこは危険性が高くて、おんぶしてきっちり紐で固定したら割と安全性は高くなるし違反ではないとか、そういうことを知らずにしてしまっている方がたくさんいらっしゃると思うんです。

あと自転車のヘルメットは、努力義務化したとはいえ、まだまだあまり浸透しているとは言い難い状況です。折角、「サイクルシティ堺」ということで堺市で打ち出してらっしゃるし、アンケートでは交通の利便性がよいところをたくさんの方が北区の魅力として挙げていらっしゃいますし、安全に移動できることは生活の基本になるものなので、そういった交通ルール・マナーの啓発や向上などにより取り組んでいくことで、子育て中の方も高齢の方もこどもも、いろんな人が安心して移動できるまちだというのを出していけるといいと思います。

- 加我座長 ありがとうございます。平坦で自転車で移動しやすいまちをフル活用する、そうするとマナー・ルールというのが大事だと思います。

防農さん、よろしくお願いします。

- 防農構成員 先ほど出た話ですが、住民の方々、自治会加入率が減ったということでどういうふうにしたらいかなということについて、住民同士のアンケートからもつながり方がだんだん減っているということですが、もう深いつながりをあまり求め過ぎるともっと冷え切ってしまう可能性もなきにしもあらずなので、例えば月に1回緩いイベントとか、オンラインをフル活用した交流の場などを持ったらいのかなと思っております。

あと防災の話ですが、南海トラフの件や能登の地震とかありましたが、安全・安心な街の実現に向けて地域防災力を強化、情報の見える化というのは、皆さんで共助の力をこれから発揮して実現させようと思えば、やっぱりつながりが必要と思うので、防災を取り入れてつながりを発展させられるといいと思います。

あとは4年前と振り返りまして、ICTが、すごく進化してきたのかなと思います。

この前もテレビ番組であつたんですが、AIを使った防災ということが取り上げられていました。人と人とのコミュニケーションで防災の向上をしていくことも必要ですが、そういうAI的な要素も取り入れたICTの新たな利用、道具として利用することも、他の区も多分やっていないと思うので、今後、真っ先に北区で取り入れてやれば面白くなってくるんじゃないかなと思います。

- 加我座長 アイデアをありがとうございます。

本当にこの4年間でデジタル技術が進歩して、我々も学生が論文を書く時にゼロからではなくて、どこかでつくられたものを活用するみたいな時代になってきています。新たなハイテクノロジーを上手に取り込みながらできるとよいと思います。

一方でローテクと言いましょうか、人と人とのアナログなつながりも大切にして組み合わせていけるとよいと思います。

はい、ほかはいかがでしょうか。はい、どうぞ。

○羽根構成員 アナログで思い出したんですけど、北区広報紙で、いろいろ載せていただいているイベントなどの情報に、詳しくはこちらとあってQRコードが付いてて、QRコードに入らないと中身が分からない記事が多いんです。うちの母は88歳なんですけど、これいいなと思っても、QRコードが分からないって言うんですね。せめてそういう紙ベースの情報はちょっとアナログで見られるようにしていただいたら、高齢者にも優しいかなという気がします。

○加我座長 本当にQRコードを掲げておいたらいいのかと、今ちょっと私の知り合いの方が怒ってらっしゃるのが、電車の時刻表が全部QRコードに変わったんですね。便利になったのか面倒くさくなったのか分からないと怒っておられることがありました。やっぱりアナログの良さというのと、QRコードの適切な活用方法を考慮いただいて、資料にもありますようにWeb上だけでない多様な媒体での情報発信を心がけていくべきだと思います。

はい、どうぞ。

○魚谷構成員 デジタル全盛の時代だからこそ、フェイストゥフェイスのつながりが一段と大事になってきているんじゃないかなと思います。

私自身が相当年なもんですから、終戦後は3歳ぐらいで、子どもの頃はいわゆる下町にずっと約18年間住んでまして、その頃は、高層の建物はなくて、長屋が結構多かったんですね。そうすると隣のおばあちゃんが、遊んでる時にちょっと来なさいって呼んでくれて、将棋や五目並べを教えてもらって、随分上達した記憶があるんですけども、現代の高層のマンションでは、なかなか近所で、誰かが何かを一緒にやってというのが感じられない時代になっています。

今さらそういう街並みにするのは無理ですから、北区でも畑の耕作放棄地などの遊休地が結構あると思うんですね、そういうところを、今かなり家庭菜園をやってる経験のある方が多いですし、元お百姓さんだけけど今は仕事を辞めたという方もおられますので、そういった方にボランティアで開墾して畑地にしていただく。それを無償で近所の高齢の方などが野菜作りをする。あるいは私が今やってます家庭菜園では、幼稚園の先生が畑を借りて、ご自身で考えられているような野菜をつくられて、園児たちを収穫時期に何人も連れて来られて、さあ収穫体験しなさいということもやっておられます。やっぱり自分で借りてとなるとお金がかかってなかなか難しいと思いますので、できれば、社協なり行政のほうで借りていただいて、高齢者から小さい子どもまで、多世代交流という形で活用していただく手もあるんじゃないか。それが強いては、子育てにもつながるし防災にもつながる、皆さんとのつながりが広がる一助になりますので、そういったアナログ的な側面も必要なんじゃないかと思います。

○加我座長 ありがとうございます。アナログのよさとデジタルの両面の良さが重要になってこようかと思います。続いて、いかがでしょうか。

○野田構成員 今、北区で「北区みんなで防災」というSNSに投稿する企画があるんですけど、投稿が全然されてなくて。

会議に出てるつながりで「北区みんなで防災、投稿をぜひお願いします」というチラシを見た時に、投稿を誰がしてるんやろって見たらその時点では、区役所だけだったんですよ。もうちょっとで終わるような時期だったんですけど、その時点で全然投稿されていない状況で、私が何回か投稿して増やしていった、今投稿を見ても

らうと、結構私の投稿で埋まっているんです。それから様子を見てたら、3月末までに期間が延長されたりとか、北区在住でない方も応募可能になったりとか、あとはSNSを使ってない方は郵送も受け付けますとか、かなり募集を拡大しているのも随時チェックして見えています。

アンケート調査結果で地域活動に参加したくなる条件について興味関心があればや、参加しやすければとありますが、もう何せ皆さん今お忙しいんだなという感じで、なかなか自分が主体となって何か活動していこうというのは結構難しい状況なのかなと感じています。

ちょうどつい最近、神戸で日本財団主催の防災イベントがあったので行ってきたんですね。その時にすごいなと思ったのが、会場に行った途端、長蛇の列で並んでるんですよ。ものすごい数の人が防災の展示を見に来ているんですけど、すごい工夫がされてまして、まず、シールラリーの台紙に防災のことが細かくまとまって書かれてあるんですね。その台紙をまず防災のリュックなどに入れておけば、何かあった時やちょっと調べたい時に簡単なことだったら分かる内容になってまして、更にその展示を見ていった中でシールを貼って行って、最後まで見終わったら防災リュックと防災グッズがもらえるという企画だったんです。そしたら、やっぱりみんなリュック目当てだと思うんですけど、長蛇の列でも並んで、もう真剣に見てらっしゃったんです。知ってることもあれば、私もこの会議に携わって勉強してるほうだと思うんですけど知らないこともあって、すごい有意義で、こどもは小さいんですけど、家族の人数分の防災リュックをいただけて、避難時の準備がすごく進んだなという満足感が高いイベントでした。やっぱり何かもらえるっていうのは、もう現金な話なんですけど、すぐ来てくれるんだっていうのを切実に感じました。

「北区みんなで防災」のアイデアコンテストはすごくいい取組だとは思ったんですけど、どうしても「防災アイデア募集」って書かれてしまうと、何か有識者の目線で誰も知らないようなことを投稿しなければいけないっていうハードルがあるかなと感じたんですよ。だから企画を知ってるけど、この会議にも出てるけど、それまで投稿しなかったのはそれが理由なんです。けれども、あまりに投稿されてないから、みんな知ってるであろうことをどんどん載せていきました。皆さんに知ってほしいし備えてほしいことは、ハードルをとにかく下げる。自治会の加入の有無もそうだと思います。入っていない方でもどなたでも来ていいと思えるのも大事だし、有識者でなくても専門的な知識を知らなくても参加しやすいと思えるような、とてつもなくハードルを下げて、来さえすればみんなが何かもらえるという試みが必要なんじゃないかなとそこへ出かけて行って思いました。

○加我座長 ありがとうございます。

○魚谷構成員 インセンティブっていうのは非常に効果がありますね。今回のアンケートで3,000人対象にしていて回収率が大体50%ちょっと。済んだ話ですけども、ちょっとインセンティブを入れると回収率はもっと上がるかなと思います。高い物でなくても、ほんのちょっとした物でいいんですよ。イベントでも参加者に景品をあげるとなると、やっぱりたくさん来てくれます。

○加我座長 ありがとうございます。

あと防災関連について、やはり1995年の阪神淡路大震災がございまして、神戸の方々をやっぱり見習ってということは常に重要なのかなというふうに思います。

続いていかがでしょうか。

○中田構成員 今回のインセンティブの件は、私の友人が今回の北区のアンケートの調査を受け取っていて、まさに何かもらえるんだったらやるのにと云ったので、結局その人はやってはいたんですけど、それは大分効果があるんじゃないかなと思います。

将来像とか基本的な考え方とか、現ビジョンよりも何か簡潔なものになるのは、よりぱっと分かりやすくいいと思いました。

あと、先ほどあった耕作放棄地の話に関連して、最近田舎のほうの農家さんにボランティアに行った時に、農家は景観に対する責任があるというような話をお聞きして、なるほどと思っていたので、田畑の景観を守っていくことも地域を活性化する上で大事なんじゃないのかなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。私も現ビジョン策定時に関わったんですが、当時全く気にならなかったんですけども、例えば、「すべての人が住みたくなる街、ずっと永く住み続けたい街」を良いと思ったんですが、確かに長いですね。考え方を変えずに、本当に口ずさめるような、簡単に読めるようなものにしていくことは重要に思います。

耕作放棄地もそうですし、これから空き地や空き家の課題もあります。アンケート調査結果で今の時点では街並みが美しくなったと高評価のほうに向いてますが、場合によっては今まで土地利用されてたところが利用されなくなるというように、これから荒廃させないようにどう対応していくかということも新たな課題かと思いますので、少しお考えいただければと思います。

では、長尾さん、いかがでしょう。

○長尾構成員 長尾です。いつもありがとうございます。

私はこども食堂をやってまして、先ほどの魚谷構成員さんが農地でこどもたちにということをおっしゃってたんですけど、社会福祉協議会さんから以前お話をいただきまして、畑の売りに出せないキャベツを収穫する農地法人の人手がないので、こどもたちに収穫してもらえませんかという話をいただきました。こども食堂の職員と、それが平日の明日来てくださみたいな感じだったので、近くのお知り合いのフリースクールの先生に声をかけさせてもらって、フリースクールに来ているこどもたち10人ぐらいと、キャベツの収穫をさせていただいて、すごい経験をさせてもらったし、農家の方もすごい喜んでくださって、社協の方がいつも本当にいろんなことを考えてつなげてくださること、すごいありがたいなと思っています。それをきっかけに、またその農家の方やフリースクールのこどもたちとこども食堂というつながりを持てたので、リアルなつながりが広がってよかったなと思いました。またこれからもよろしくお願いします。

○加我座長 はい、ありがとうございます。では清水先生、いかがでしょうか。

○清水構成員 清水です。まずはお詫びなんですけど、1年間ちょっと会議に参加できなくて、予定は出なんですけどいつも授業のある日ばかりに重なって、すみません。全然出れなくなって今回最後なんですけど、合わせてくださってありがとうございました。

私2期目させていただいて、いつも思うことなんですけど、この北区で地道にいろんなことに関わっておられる皆さんが、一生懸命こういうふうを考えて集まって意見交換ができる場があることが素晴らしいと本当に思っています。皆さんと意見交換できるとか、こうやって顔を合わせられる機会をずっと持ってらっしゃることにもう敬

意を払っており、これが続くことを願っております。

すみません、ご無沙汰でしたので頭の整理ができてないんですけれども、今日のこの資料を拝見させていただいて、まず根幹になるのは、この6ページの部分かなと思います。赤い議題資料ですね。

勝手に思うところをお話いたしますが、三角で上に向かっていく図の中で、一番下のところに、このアンケートとか社会状況があって、そこから考えていって基本方針、戦略、将来像、基本的な考え方へ持っていくということですが、基本方針が戦略にうまく組み込まれてないような気もちよとします。

例えばですね、安全・安心の街の基本方針があってそこから上を見ていくと、それに対する文言やニュアンスが少しないのかなと。アンケート調査結果を見ても、前段から話が出てますが、防災とか防犯に関する意識が高い方たちが多くいらっしゃる中で、しかも目標値にすごく高い数字が表れていて、安全・安心の基本方針のところで、不満を感じている区民の割合を10%未満にしたいということでもある。ほとんどの方は不安を感じてなくても、とにかく関心も持っておられる中で、戦略と将来像に「たのしい」ということは出てるんですけれども、自信を持つために、この区はもう安全・安心はもうしっかり考えてできているということを何か伝える文言があるとよりいいのかなと思います。楽しいというのは明るくて何かいいな、住みたいとなるのですごくいいと思うんですけど、そこに楽しいけれども安心なのかみたいな疑問があると思うんです。勝手な自分のイメージですが、安全・安心であることを基本方針以上の枠組みでも謳ったら、もう自信を持って自分の区が安全・安心でしかも楽しいんだということが言えるのかなと思いました。

細かいところでは11ページにアンケート結果でいろいろと面白いのが出てるなと思ったんですけど、下の囲みの中の丸3つ目を見るとですね、興味のある区役所からの発信情報で「魅力スポット」と「防災」「イベント・講習」「防犯」とあるんですけど、これ2つの種類に分けられると思います。

まず1つは、防災と防犯ですよ。これは上手くできているので、根幹となる部分は大丈夫という気持ちもあると思うんですね。あと「魅力スポット」と「イベント・講習」というところに、安全・安心で過ごす住みやすく楽しいけれども、新しいものがもしかしら欠けているんじゃないかという雰囲気が感じられました。なので、すごく安全・安心で楽しいけど、目新しいものとか、もうちょっと楽しいこととかを付け加えてあげることによって、更に楽しく住みやすいまちになるのかなと思いました。

例えば、アンケート調査結果資料の24ページなんですけど、飲食店の充実っていうのがありますよね。やっぱり食って毎日食べるし、中心になると思います。たまにやっぱり美味しい物を食べたりとかカフェがあったりとかバーがあったりとか、そういうのを求めている、もっとあったほうがいいなというアンケート結果だと思うんですね。それを考えた時に、これもやっぱり新しいところだと思います。

さっきちょっと空き家という言葉が出たんですけど、例えば、商店街の空き家を活用して、何か新しいことを始めたいけれどもお金がない、やり方が分からないという人たちをサポートとか補助してあげられるようなシステムなりがあると、難しそうな飲食店の起業にトライができるのかなと思います。いろんなアンケートを取っておられるんですけど、もうちょっと次の段階の個別のテーマごとにアンケートを取ってみるとそういった人がいるのかどうかとか、お店なんかを始めてみたいけど何で困っているのかとかも分かるのかなと思いました。

それとですね、連携の話が出てました。人がやっぱりなかなかいないということですが、外の力をもうちょっと

と借りたらどうかと思いました。中だけで全部は完結するのは難しくて、北区以外にも堺市でもいいですし、それ以外でも外部との連携、外部の力を借りるということもいいと思います。

その外部もちろんビジネスをやってる方でもいいですし、ボランティア団体でもいいと思います。アンケート調査結果で参加したい地域活動では、やっぱりスポーツとかレクリエーションに関する活動っていうのがあるんですけど、今、自分たちからやろうっていう人は少ないという話でしたので、いろいろ外部にスポーツ団体があると思いますので連携できるいいなと思います。このスポーツっていうのもスポーツに特化してアンケートをとることで、どういうスポーツをやりたいのか、どういうレクリエーションしたいのか、やったことがあるのか、今やってるけれども場所がないのかが見えてくると思います。そうするとどういう連携が必要なのか、どこにサポートを求めればいいのかっていうことも分かってくると思うので、この連携に関しては、外部に助けを求めてもいいし、外部も助けを求めてるかも分かりませんので、その辺りを上手く使って関係をつくっていけばいいのかなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。

今のご意見を受けて触発されて、まだ言い残したことはないでしょうか。よろしいでしょうか。

○吉村構成員 もう私が言うまでもないと思うのですが、いろいろと計画を立てていただいている中に、中百舌鳥と新金岡の開発、大きな開発が2つも北区の中で行われるっていうことはもう皆さんご存じのとおりなので、ぜひいろいろ皆さんからご意見をいただいたこととか市民の声とか、そういうのも中に入れていただいて、もう見るからに素敵なまちづくりをしていただきたいと思います。

○加我座長 はい、ありがとうございます。

中百舌鳥、新金岡については、区役所から何かありますか。よろしいですか。宣言でもいいですけど。今の状況はまだ事業化に向けてということだと思いますので、抱負等あれば。

○事務局（市川部理事） 北区部理事の市川です。新金岡地区活性化推進室が昨年度でき、2年間かけて、この3月に新金岡地区活性化推進プランという計画をつくりました。この計画は、新金岡の街が、昭和40年前後にでき、おおよそ50年から60年経過した状況で、古い団地が増えてきた。それを大阪府や大阪府の公社が集約建替を進めている。現在、レインボーや金岡公園の横が空き地になって結構時間が経過しているが、土地の持ち主である大阪府と連携しながら、住んでおられる方にも、それに加えて周りから来られる方にとってもいいものになるように、検討を進めているところです。プラン自体はホームページに掲載しています。もう1年ぐらいあれば動きが少しずつ見えてくるかなと思います。機会をいただきましたので説明させていただきます。ありがとうございます。

○加我座長 ありがとうございます。街が新陳代謝していくと言うんですかね。安全・安心をベースにしつつ新しくしながら魅力あるものができていくということだと思います。新金岡もそろそろいろんな建て替えも含めて街が変わっていくところだと思いますし、中百舌鳥もイノベーション拠点として動きつつあるというふうに聞いてございますので、新たな北区の魅力になればと思います。

先ほど、清水先生からもご指摘いただきましたけども、実は飲食店舗の充実っていうのは、結構皆さん不満に思ってる、これは公共がすることではないですが、飲食店舗が充実していくことは街の魅力が高まっていくということでもあるかなと思いますので、そういうところにつながっていければなと思います。

ほかございませんでしょうか。大体よろしいでしょうか。

では、ちょっと私のほうから少し意見をお話させていただいて、終えたいと思います。

一つには、皆さんからご意見をいただいている、公園をはじめとする緑であり、古墳、街道沿いの文化財など北区の持つ魅力を受け継いでいくということと、その中に新しい物をどう組み込んでいくかという新旧の両方が必要になってくると思います。それらのベースには、安全・安心が求められると思います。

戦略ABCと基本方針のところで、楽しいということと安全・安心をどうつなげていくのか、上に掲げて示すのかみたいなことは、次の骨子のところで検討をしていかないといけないのかなと思います。

そしてもう一つ、いろんなところで結構議論になりますが、議題資料の6ページで区民アンケートから積み上げていって、ピラミッドで下から上につながっていくというようなことがあります。まちづくりはボトムアップということがよく言われますが、場合によっては、トップダウンで上から下ろしていくということもあろうかと思います。これがトップダウンがいいのかボトムアップがいいのかっていうのではなくて、トップダウンでもありボトムアップでもあるということの二方向であるということが求められているかと思うので、ワンウェイでなくツーウェイで、もしかしたらもっと多様にマルチウェイでというようなことが求められてきているのが、多様な連携であったり、水平でも更なる横のつながりに通じていきます。古いものに新しいものっていうようなことでは、私、造園学を専門にしていますが、それは華道でもあり茶道にも通ずるものがありまして、常に議論されるのが、庭師の心得の親方の背中を見て樹木や場を扱うんだみたいなことではいかに型を学ぶかということと、決して伝統だけでなく常に流行をどう組み込んでいくのかということと、先輩の先生方から言われるのは、今の流行や新しいテクノロジーを伝統文化の中にどう組み込んでいくのかということです。流行とか型とか、不易流行であったりだとか、基盤としてあるものと今の流行をどう組み込んでいくのかというようなことが常にまちづくりでは求められると思います。その辺りは、今日皆さんからご意見をいただけたと思いますので、次期に受け継いでいただければと思います。

そして、基本的な考え方、将来像、現行の基本方針の考え方の部分を引き継いでいけれども、これを分かりやすく修文をしていく。また区のみならず民で、北区内だけでなく北区の外も含めてということで多様な連携を、これはずっとこの会議でもありましたけれども、いつでも頼んでくださいという言葉が構成員の皆さんからいただいていたかと思います。区役所だけでなく民の方々に、外にも連携先を持つことが重要になってくるかと思います。そのための戦略としてのアイデアはたくさんいただいたかと思うので、バージョンアップをしていただけたらと思います。

あともう一つ付け加えといいますか、清水先生からいただきましたけれども、興味関心のある地域活動としてスポーツ・レクリエーションが意見が多かったということについて、これは高齢化社会に向けてでいきますと、今もう一つ気になってますのが健康づくり、これは先ほどの菜園での活動も健康づくりにつながってくところだと思います。日々散歩をすることも健康づくりだと思いますし、子育て世帯でいきますと、スポーツ・レクリエーション、アクティビティが高いものが求められると思います。高齢層のみならず若年層もそれぞれに対応した健康づくり、スポーツ・レクリエーションということがもしかしたら欠けていたのではないかと思います。その辺りも考慮をさせていただいて、それが安全・安心につながっていく基盤づくり、まちづくりにということを次期構成員の方々に引き継がせていただいて、ビジョンをご検討いただければと思います。

言い残したことはございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

この「北区みんなのまちビジョン」、まだ2割の区民の方々にしか注目されてないということですが、こういった計画の中身を区民の方々に実感していただけることが大事だと思います。それに向けて指針となるまちビジョンをうまく改定していただければということをお願いして、本日の取りまとめにしたいと思います。

それでは、これで本日の区政策会議、また今期お付き合いいただきまして、どうも誠にありがとうございました。それでは、事務局のほうに進行をお返しいたします。

○事務局（増川企画総務課） 加我座長、ありがとうございました。

それでは、第2期北区政策会議の締めくくりとして、北区長の鈴木よりご挨拶をさせていただきます。

○鈴木区長 皆さん、長時間、誠にありがとうございました。

本来ならば、初めにご挨拶をさせていただくところですが、今日は2期の最後ということで、ご挨拶をここでさせていただきます。

構成員の皆様におかれましては、今日も活発なご意見をいただき本当にありがとうございます。今日をもちまして、第2期の北区政策会議は締めくくりとなります。

この2期の会議でございますが、令和5年10月から1年半にわたりまして、区民の皆様とともに区域をつくっていく、「北区みんなのまちビジョン」に関して、構成員の皆様にご意見をいただいております。本当に活発にご意見をいただいたのは、皆様それぞれが実際に北区のまちづくりの一端を担う活動をいろんな立場でされておられるからこそ、このように活発なご意見をいただけたと思っております。改めて貴重なご意見を賜りましたこと、本当に心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

皆さんからいただいたご意見・アイデアを基に区民協働による地域共生を実現していくことが我々の役目ですので、今後ご意見を十分踏まえながら、ここで実現化した事業を大事に育ててまいります。

私ども事務局として、会議の運用やご意見を踏まえた取組につきましては、まだまだ至らぬ点がございました。次期に向けまして、改善したいと思います。

北区政策会議でございますが、4月から第3期がスタートいたします。引き続き、北区みんなのまちビジョンに沿って施策や取組が推進されているかどうか、北区の課題解決や北区区民のニーズに応じた取組内容となっているか等についてご議論をいただき、また、来年3月策定予定の次期ビジョンが、より地域の実情に合った実効性のあるものとなるように、引き続き、ご意見、ご議論をいただきながら、策定を進めてまいります。

本当に2期の構成員の皆様におかれましては、貴重な時間をいただきましたことを御礼申し上げます。

最後に、私から今回をもって構成員を満了される方をご紹介したいと思います。

北区ボランティア連絡会の代表者として長年にわたり参加していただきました魚谷さん、本当にありがとうございました。魚谷さんにおかれましては、長年のボランティア経験と街をよくしたいという強い思いを持って様々な意見をいただきました。大変失礼なんですけど、もう本当にこのお歳とは思えない、新しい意見、それから柔軟な考えを持ってご意見されていることに、私は本当に感服いたしました。心より感謝いたします。

次に、阪南大学教授の清水先生におかれましては、最後まで本当に様々なよいご意見をいただきありがとうございます。ステークホルダーへのアプローチなど、区域活性化のアドバイス等について今までご意見をいた

だいておりました。本日もビジョンの構成に関しまして、分かりやすい言葉でご意見いただきましたことを感謝しております。

外部の力をもっと頼ったほうがいいというご意見は、本当に心に響いております。我々市役所、区役所、本当に横のつながりというのが非常に難しいというか、不得意です。私2年前に北区役所に配属になりましたが、区役所というのは様々な部局があり、その連携は難しいと感じています。私もしっかりガバナンスを効かせて、連携を取っていききたいと思います。お忙しい中、本当にありがとうございました。

次に、ベビーシッターサービス スマートスマイル代表の長尾さん。長尾さんにおかれましては、こども食堂の「つなぐば」の運営者として、こどもたちを支援する方々の生の声を聞かせていただきました。実際、長尾さんのこども食堂にお伺いし、現場を拝見させていただきましたが、本当にいろんなことを考えさせられました。これからも地域での活躍を期待しております。ありがとうございました。

次に、北花田グランアヴェニュー防災会の副会長であります羽根さん。北区は特にマンションなど集合住宅が非常に多い区ですので、集合住宅の防災の取組の先駆者として参加していただき、様々なご意見をいただきました。今日もお話がありましたが、地域コミュニティの強化が防災力の向上になるという、これは分かっているけれどもなかなかできないところで、私もマンションに住んでいますが、マンションに誰が住んでいるか分からない状況です。羽根さんのご意見からも、誰が住んでいるか分からない中での防災力向上が、非常に難しい課題であることを改めて認識しました。

先ほど自助・共助の話がありましたが、やはり我々の公助をしっかりとしないと、実は自助・共助が生きてこない。だから我々区役所としても、自助・共助に頼るだけではなく、公助もしっかり進めてまいりたいと思います。本当にご意見ありがとうございました。

そして関西情報センターの主任研究員であります、防農さん。防農さんにおかれましては、民間の防災研究所として日本国中の防災対策をご覧になっておられて、専門的なご意見だけではなくて、民間の研究員としての実践的なご意見をいただきました。実は先日、ほかにも堺市の防災の取組にご協力をいただいているという話を聞きました。引き続き北区だけではなく堺市の防災の取組にご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、幼保連携型認定こども園のわんぱく保育園の園長であります、吉村先生。吉村先生におかれましては、保育のプロの視点から本当にたくさんのご意見をいただきました。子育てという視点だけではなく、地域住民としてよりよい街にしたいという思いなど、たくさんの視点からいろんな素晴らしい提案をいただきましたことを感謝申し上げます。また違ったところで引き続きいろんなご協力を賜りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

皆様には、本当にこの2期の北区政策会議、活発な意見をいただきましたことを心から御礼申し上げます。そして、貴重な時間を北区役所に、北区民のためにいただきましたことを感謝申し上げます。ここにおられる皆様のこれからのご活躍とご健勝をお祈りしまして、私の挨拶とさせていただきます。皆さんどうもありがとうございました。

○事務局（増川企画総務課企画係長） 構成員の皆様、本日はありがとうございました。

以上をもちまして、第2期北区政策会議第4回目を終了させていただきます。

本日いただきましたご意見を参考に、次期ビジョン骨子案を作成し、「『たのしい』でつながる」の実現に向け、区民の皆さんとともに前向きに取り組む次期ビジョンの策定を進めてまいります。